

長崎市提案型協働事業提案企画書

団 体 名	体験楽習クラブ さ~くる
提案事業の名称	わかる・いきる・つながる 楽習サポート事業
提案事業の目的	<p>当会は、「多様な人たちの共生」「各人が生かされ、しあわせであること」「当会の活動内だけでなく、相互理解やあたたかい空気が地域・社会に広がっていくための人材育成」をミッションとして活動してきている。</p> <p>そのような中で、本人・保護者・教員などから声を聴いてきたことのひとつが、「発達障がい（神経発達症群）」の背景やそれに起因する環境との適応の難しさなどから学習の習得や就労の困難さを抱え、自己肯定感・効力感などを損なっている又はそれが危惧される子ども・若者の現状である。</p> <p>彼らが学ぶ意欲や自他への安心感を持ち、自分自身の将来や他者・社会と“つながる”機会を持てるようにすること、また教科学習をアプローチの軸として、他者との関わりを通じたライフスキル・ソーシャルも含めた“それぞれの可能性を活かしながら、しあわせに生きるための学び・体験の場”を創出し、それがニーズのある地域にその場が広がるために、ノウハウの蓄積・普及と人材を育成していくことを目的として、本事業を実施する。</p>
課 題 の 緊急性・重要性	<p>「発達障がい（神経発達症群）」などの背景を持っている児童・生徒の学習面の習得の困難さは、近年認識が広がってきたところであるが、それに対しての具体的なサポートは充分ではなく、反復練習などを中心として、学校現場でも模索しながら取り組んでいる状況である。また、教科学習に限らず、対人面での困難さも伴い、より就労までに、そしてその後の継続につながりにくい現状があり、保護者・家族の心理的・経済的負担と不安も大きい。</p> <p>発達障がいの発生率は13.3%とも言われており、以前より認知されるようになってきたことも相まって、増加傾向にある。決して無視・軽視できない数であり、本市としても早急に取り組んでいくべき課題である。</p>
協働の必要性	<p>前述のような「困り感」を持っている、本人・保護者・教員などに本事業の取り組みが周知され、また本市に内在するニーズをより広くつかみ応えるために、市内全域の各学校への案内・アンケートの配布が必要かつ有用と思われる。団体単体ではそのようなことは難しく、協働だからこそ可能なことであり、また長崎市との協働事業ということで、いままで当会につながりがなかった方でも、安心感・信頼感を持って相談・参加していただく契機となる。また、本事業だけでそれらのニーズに全て応えていくことは困難であり、教育委員会の取り組みや、市の施策として検討・展開されていく上でも、協働が必要である。</p>
協働による 相乗効果	<p>協働事業として実施することにより、市民にとっては費用負担が軽減され、サポートを受ける機会を得られやすくなる。またノウハウの蓄積や人材育成が進むことにより、本事業のみならず、必要なサポートを受ける環境が広がる。長崎市としては、本事業を軸としてより市民ニーズを把握するとともに、協働の計画・実施のプロセスの中で、「すきま」になっているニーズに対してのサービス・施策の方途を見出す機会ともなり得る。提案団体は、人材の確保・育成が進められるとともに、「ミッションの実現」を進めることができる。</p>

<p>協働の役割分担</p>	<p>1 提案団体が果たそうとする役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サポート事業の運営・実施 ・人材の育成と発掘 ・ノウハウの蓄積および教材開発 ・保護者のエンパワーメント・保護者間のつながりづくり <p>2 本市に期待する役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業の広報・周知 ・会場の確保・開拓の協力 ・市民ニーズに基づいた取り組みの共同開発 ・政策提言・施策の実現
<p>提案事業の内容</p>	<p>(目標)</p> <p>当事者や保護者のニーズを具体的につかみ(量的・質的に)、事業の意義を広く伝えるとともに、人材育成や教材開発に取り組む。</p> <p>(成果)</p> <p>さまざまな個性・特性に応じたサポートの場を持つことにより、学習面での理解のみに留まらず、自己肯定感・効力感を育み、二次障害・三次障害を未然に防ぐとともに、それぞれが自分を生かし、チャレンジしていくことができる。また、そのことが就労、さらには生きることそのものへの意欲となり、自分自身の安心・安定が得られることによって、他者や社会そのものへの興味や安心感・信頼感を持ちながら 関係を築いていくことにもつながる。また、保護者同士のつながりの場づくりや本人たちの変化により、本人はもとより、保護者・家族の心理的な負担の軽減ともなりうる。</p> <p>(内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科学習…特別支援教育士らの研修を受けたスタッフが、個々に応じて個別に対応しながら、家庭や学校での学習にもつながるようにサポートする。 ・体験学習…実際のセンター内での スタッフや他の参加者とのやりとり・共働の体験や、それぞれの日々の具体的なケースについて、「体験学習的」に捉え、フィードバックする機会を持つ。 ・保護者のひろば… 保護者同士が知り合い、相談しあえる場を創る。 <p>※家からでられない、集団での活動が難しい方で要望があれば、「家庭教師」的に、アウトリーチでの対応も検討する。</p> <p>(実施日程)</p> <p>平成27年4月～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金曜コース 週1回 17:00～18:00 ・土曜コース 月2回 10:00～12:00 ・日曜コース 月2回 10:00～12:00 <p>※その他 夏期の集中コースも開催</p> <p>(参加対象・予定数)</p> <p>長崎市内在住の 生きづらさや学びの困難を抱える小学生～高校生 計25名ほど～の開始を想定</p> <p>(実施場所)</p> <p>銭座地区コミュニティセンター(長崎市宝町)</p> <p>※JRの浦上駅やバスセンターから近く、広範囲からの参加がしやすいため</p> <p>(予算額) 収入・支出ともに 総額 1,023,200円</p>

<p>提案事業の 実施体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・統括責任者：吉田 伸吾（※プロフィールは別紙添付資料参照） 保護者との連携やスタッフ養成なども含め、全般責任を担う。 ・スーパーバイザー：岩永 竜一郎（長崎大学医学部准教授 医学博士・認定作業療法士 感覚統合認定講師 特別支援教育士スーパーバイザー） 他の特別支援教育士とも連携しつつ、スタッフ研修やアドバイスを依頼。 ・サポートスタッフ：長崎大学などの学生を主とした、研修を受けたスタッフ。 ケース・ニーズに応じ、原則としてマンツーマンのスタッフが対応する。
<p>事業 スケジュール</p>	<p>（第1四半期・4～6月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月1日（水）～受け入れ体制・活動内容の確認・人員調整、開設準備。 ・4月上旬より、本人・保護者・教員へのニーズ調査アンケート実施。 ・5月上旬 広報誌・学校配布案内などで、本事業を市民に告知。 ・指導者研修会①（※以降も、OJT的に継続実施） ・6月5日（金）～開設予定。順次情報を発信しながら運営。 ・アセスメントを行い、利用者のニーズに応じ、学習内容・方法を検討する。 <p>（第2四半期・7～9月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期保護者懇談会開催 ・夏期集中コース開催 <p>（第3四半期・10～12月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者研修会② ・2学期保護者懇談会開催 ・各学校・機関・団体等とのつながりを深め、今後の展開と、長崎市民にとってプラスとなる関係性を創る。 <p>（第4四半期・1～3月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他地域パイロットプログラムの実施。 ・3学期保護者懇談会開催 ・一年間の個々人の変化や効果をまとめるとともに、今後の各人の「日常」につながるための本人・保護者へのフィードバック、ならびにノウハウのまとめ。
<p>事業の展望及び 今後の活動展開</p>	<p>「生きづらさ・学びづらさ」の背景にあるものや、具体的なサポートの留意点・方法などをまとめ、事業の趣旨や効果と併せて広く伝えていくことにより、地域の学校などでの対応の変化や、成果の普及を目指す。2年目にニーズがある地域での実施をしていけるように、ニーズの把握ならびにリーダーシップ・場所の確保を進める。併せて、将来教員や子ども・若者と関わる仕事を目指している学生などの人材育成や、既に地域の福祉サービスに取り組んでいる団体やNPOとの連携強化に力を入れ、将来的な各現場・地域でのひろがりを生み出せるよう取り組んでいく。事業終了後は、ハートセンターや児童センターなど、「既にある資源」の公的機関や現存の人材を活かしながら、継続を目指す。また「アウトリーチセンター」的な機能の場所も設け、集団では難しいケースにも個別に対応していける仕組みを創る。診断が明確で、本人・保護者もそれを利用することに抵抗がないケースに関しては、「放課後等デイサービス」などの中でも実施できるようノウハウを各団体・施設に伝えながら、地域への広がりを目指す。</p>